



# ヒラメ太平洋北部系群 令和3年度資源評価結果

# 生物学的特性

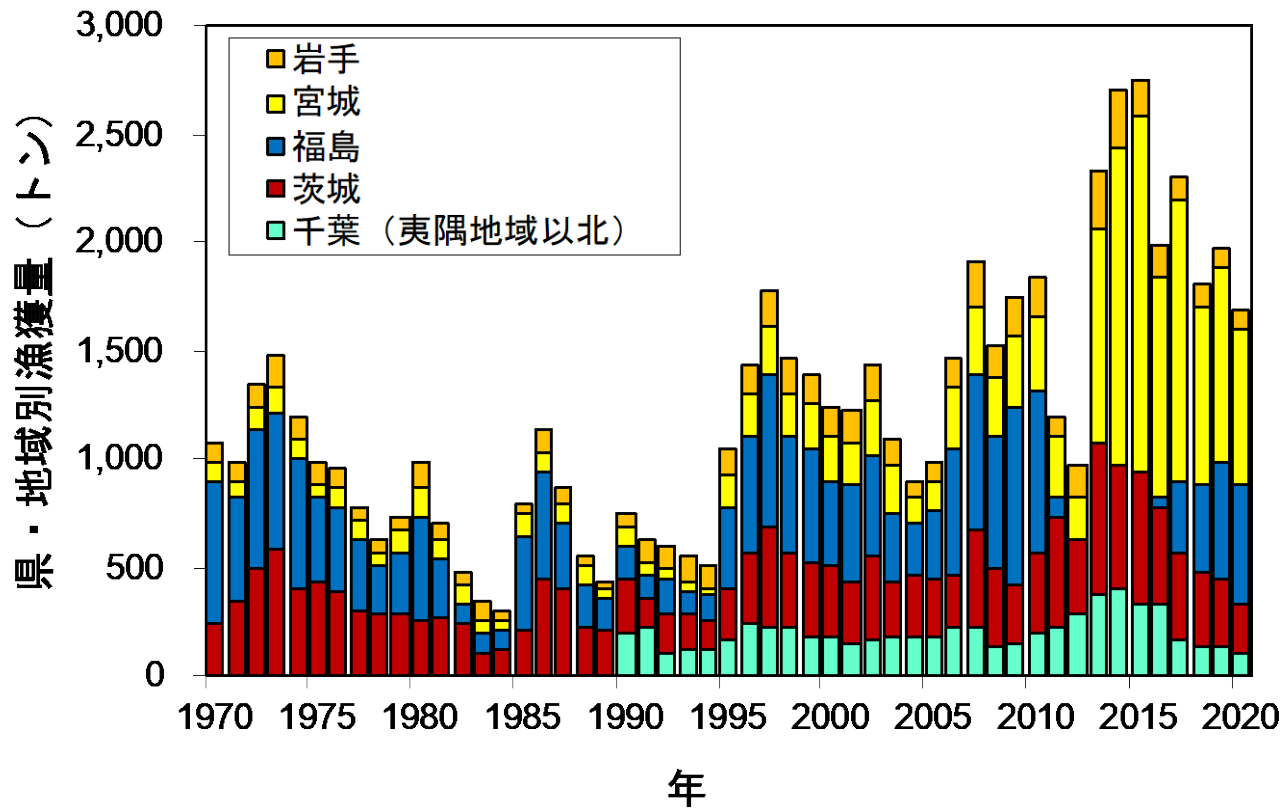


## 生物学的特性

- 寿命: 雌12歳、雄10歳
- 成熟開始年齢: 雌3歳、雄2歳
- 産卵期・産卵場:  
5~9月、水深20~50mの太平洋沿岸域の各地
- 食性:  
着底後の稚魚はアミ類  
成魚はカタクチイワシやマイワシなどの小型魚類
- 捕食者: 稚魚は大型のヒラメ、ガザミなどに被食される

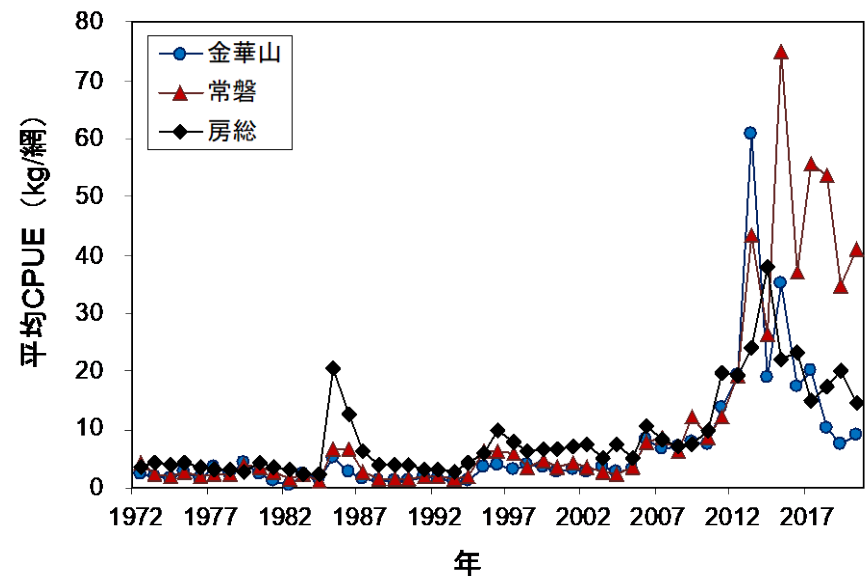
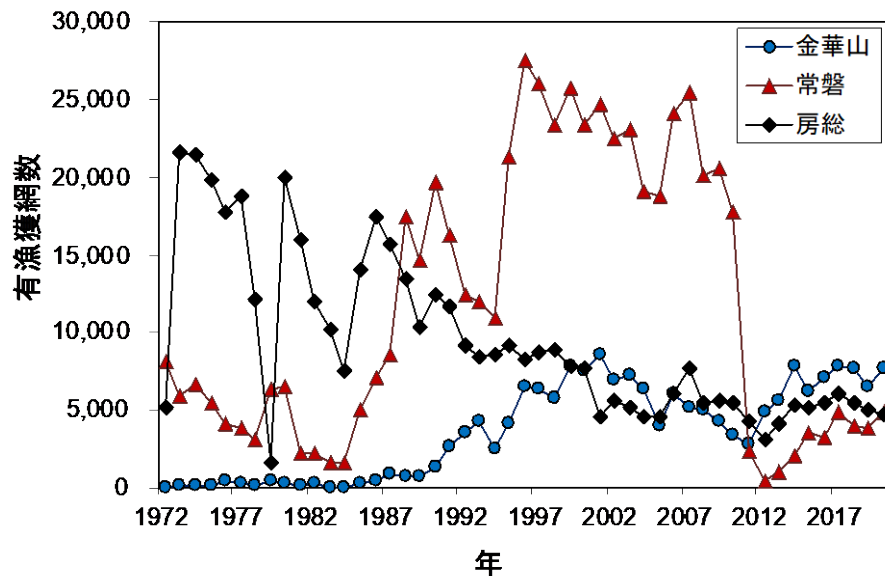
・ ほぼ周年漁獲され、漁獲量は10年程度の周期的な変動

# 漁獲の動向①



- 2020年の漁獲量：1,696トン（2019年：1,972トン）
- 2020年の福島県の漁獲量：東日本大震災（震災）前（2010年）の74%まで回復
- 2020年の放流尾数：3,407千尾、混入率：2.9%、添加効率（2011～2020年の平均値）：9.6%

# 漁獲の動向②

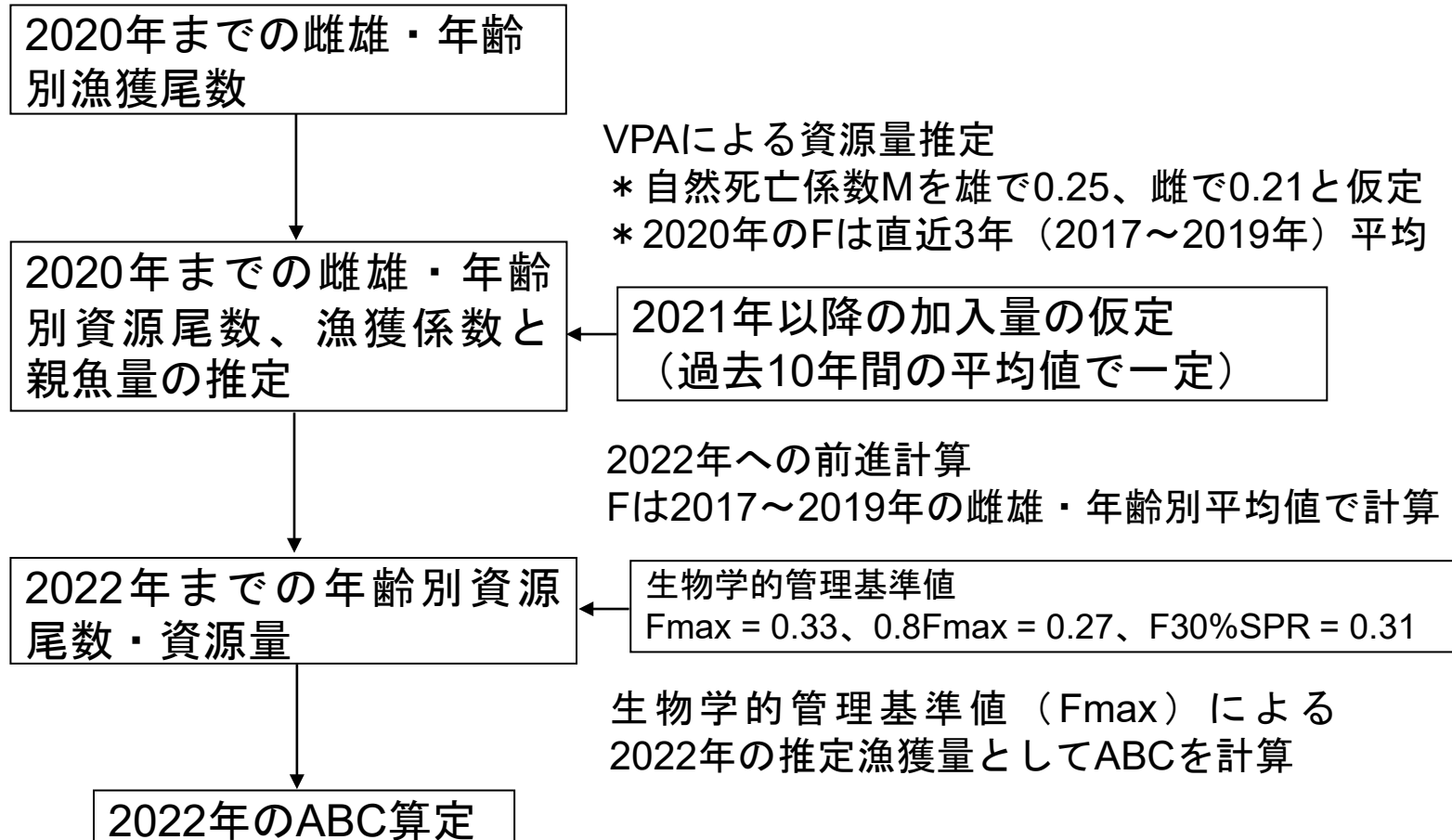


- 網数：常磐海区では1990年代後半から震災前まで年間2万網  
震災後に急減
- CPUE：3海区とも震災後に急増  
その後、減少

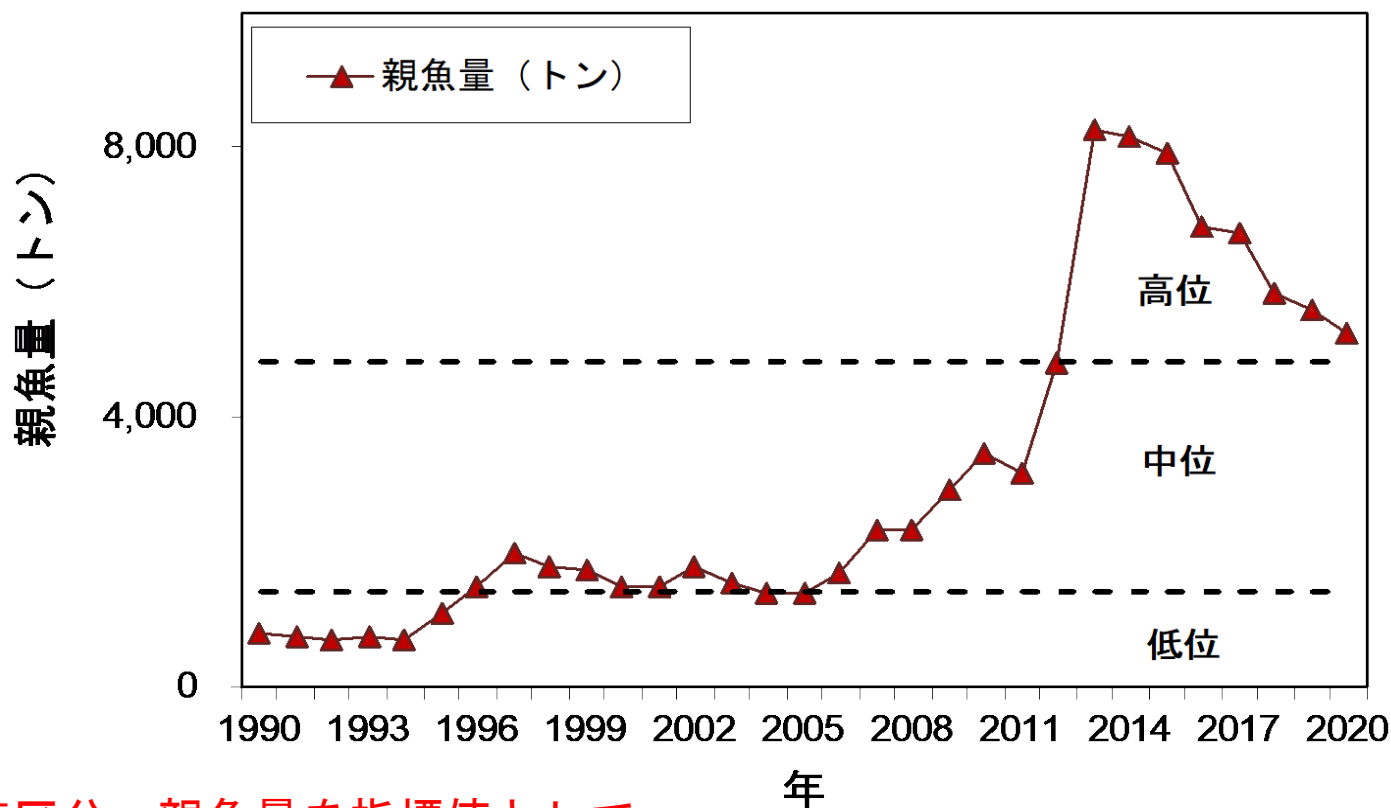
※網数：ヒラメの漁獲があった操業（有漁操業）の曳網回数

※CPUE：有漁操業の1網当たり漁獲量

# 資源評価の流れ



# 資源の動向①



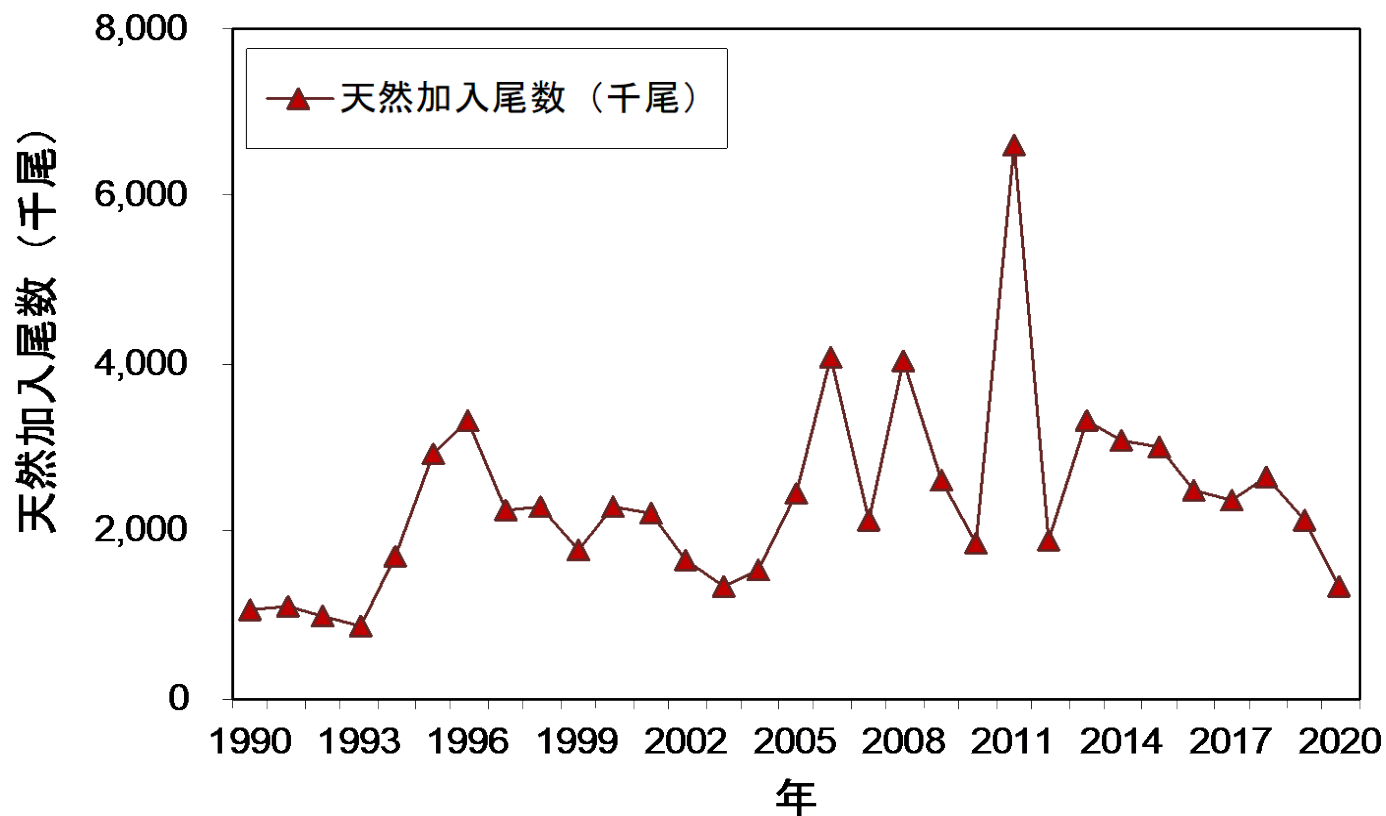
※水準区分 親魚量を指標値として、

低位／中位：Blimit（1,427トン）、中位／高位：1990年以降の最大親魚量とBlimitの中間（4,841トン）

（Blimit：再生産関係より高い再生産成功率があった場合に高い加入量が期待できる親魚量）

- 資源水準：2020年の親魚量5,249トンから「高位」
- 資源動向：直近5年間の親魚量の推移から「減少」

## 資源の動向②



- 天然加入尾数：2010年に生まれた群（年級群）が多い
- 2013年以降、約200万～300万尾で安定的

# 資源評価のまとめ

- 資源水準は高位、動向は減少
- コホート解析による親魚量に基づいて資源状態を判断した

## 2022年ABC

管理基準	Target/Limit	2022年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
Fmax	Target	1,340	21	0.27 (-28%)
	Limit	1,620	25	0.33 (-10%)

- Fmax : 現在の年齢選択率において加入1尾あたりの漁獲量が最大となる漁獲圧